

自己評価				学校関係者評価		
学校運営計画 (4月)			評価 (総合)	評価 (総合)	自己評価は	
学校運営方針	<p>【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、本校独自の館風「質朴剛健、不羈独立、自由闊達」をもつ修猷文化であたたく育み、社会の変化や生徒の実態に機動的に対応する体制を確立し、一人ひとりの生徒が未来社会を切り拓くために求められる資質・能力の育成を推進する。</p> <p>【長期目標】 1 「全人教育」を中心に捉えた教育活動の実践 (1) 後世に文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力をもつ生徒を育成する。 (2) 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、正義感をもって主体的に行動し、自らの責任を果たす生徒を育成する。 (3) 日本の公教育の強みを生かした教育活動を推進し、福岡県・日本を代表する高等学校としての在り方を生徒、教職員ともに追究する。 2 次代の国際社会や日本を担う人材、グローバル・リーダーの育成 (1) 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 (2) 生徒の可能性を伸ばし、主体的に進路を選択できる能力・態度を育むことで、10年後・20年後の自己実現に結びつけられるよう支援する。 3 教育における先進性と地域における教育の役割を見据えた改革の推進 (1) 知識と技能の習得、思考力、判断力、表現力の深化、学びに向かう力と人間性の伸長を促すとともに、求められる資質・能力を社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」を実践する。 (2) 地域の小学校、学習塾等と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させ、地域のニーズを踏まえた新たな教育実践を創造する。</p>				<p>A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である</p>	
	<p>昨年度の成果と課題</p> <p>「世のため 人のため」の本校の精神を推し進めながら、生徒の主体的な学びの機会を広げることができたと考える。これは継承されてきた本校独自の教育実践をとおして、個性の伸長や人間的な成長が図られた成果である。 今年度も継続して、主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、昨年度からスタートした新教育課程に関する評価や時制などを検証しながら、適切に対応したい。 また、広報活動等を充実させ、本校の教育活動を小学生や中学生、その保護者を中心とした地域の方々に理解していただきたいと考えている。 さらに、「Team」の充実を図り、職員が自分の所属する分掌意にも視野を広げるよう促している。本年度も昨年度同様継続すべきところは継続したい。</p>	<p>年度重点目標</p> <p>1 組織機能の活性化</p> <p>2 嬉しい骨太の生徒育成 (「修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ」)</p> <p>3 教師としての使命を果たす</p>	<p>具体的目標</p> <p>(1) 組織マネジメントの充実に向け、校務分掌・学年の業務を精選し、多様な人材活用によりミドルリーダーを育成する。併せて、多様化・複雑化する課題に対し学年・分掌を超えた「Team」を結成し、その解決に努める。 (2) カリキュラムマネジメントの充実のため、新学習指導要領に対応して変更した教育課程、学習評価法、時制等の検証・改善を行うとともに、前期の区切り「大運動会」・学年の総仕上げとなる後期の「大文化祭」の二大行事を軸に、学校暦の更なる充実を図る。</p> <p>(1) 修猷アイデンティティ (自治的・主体的行動、文武両道、豊かな知性、知の統合、豊かな人間性の涵養) と実践的行動力 (逞しさ、創造性、協働性、リーダーシップ、フォロワーシップ、自浄力) を育成する多様な場や仕掛けを設定する。 (2) 「知性の刺激、失敗を恐れない学び、語りの文化」等、人々とのかかわりの中で学ぶ修猷文化を活用し、生徒の未来を切り拓く多様な資質・能力を伸ばすために、挑戦、自他の個性の理解、命の大切さ、自尊感情、人権感覚、誇りと自信を重んじながら、成年年齢引き下げ等にも適切に対応する。</p> <p>(1) 本校が目指す生徒を育成するために、教師一人ひとりが各自のこだわり・個性を最大限発揮し、生徒に「根拠ある自信」とともに「根拠なき自信」や挑戦への意欲を持たせる等、自らが修猷文化を醸成するとの自覚を持つ。 (2) 自ら進んで研究と修業に努め、教養・幅広い知識・専門性の向上を図る。特に深い学び、ICTを取り入れた新たな学びを駆使し、上質の授業を展開する。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	教務課	1 生徒一人ひとりの力を伸ばさせるための体制構築と授業・評価法の工夫・改善を行う。	(1) 教師一人ひとりが各自の個性を発揮した質の高い授業を行えるよう支援し、生徒の学びに向かう力を高める。 (2) 各学年と連携・協力して生徒個々への対応を強化することで、生徒の学力の底上げを図る。			
		2 昨年度より変更した教育課程・学習評価・時制を、本校の現状や課題に対応しながら適切に運用する。	(1) 新しい教育課程・学習評価・時制について、課題を整理し対応しつつ、より良いものがないかの検討も進める。 (2) 年間授業時数と時間割の調整・工夫により、教員・生徒の「時間」の確保に努める。			
		3 教員の負担軽減に向けて、様々な面でより業務の効率化を推進する。	(1) 統合型校務支援システムと本校独自のシステムの併用により、担任業務の効率化を図る。 (2) 統合型校務支援システムの他校の活用状況と本校の運用方法について研究する。			
教務部	庶務課	1 校内の教育環境の整備を充実させ、教育活動の充実と発展に寄与する。	(1) 校内備品の管理と整備を適切に行い、教育環境の向上をはかる。 (2) 生徒が教室整備等に主体的に関わり、物を大切にす姿勢を身につけさせる。			
		2 本校の儀式的行事の意義と伝統を踏まえた計画の作成や運営を行う。	(1) 関係各署と連携を密にとりながら、計画・準備・実施・片付けを行う。 (2) コロナ禍以前の儀式計画に戻しつつ、この3年間で得た物も加味しながら儀式運営を行う。			
		3 PTAや同窓会と連携し、教育活動の実態に応じた組織体制や活動を実現する。	(1) 両組織との連携を密にとり、関連行事を円滑に行うことで生徒の教育環境を充実させる。 (2) PTAの組織体制や活動について、時代や実態に即した形を模索し、改変する。			
生徒部	生徒支援課	1 生徒の自治的・主体的行動を促す	(1) 教職員の共通認識のもと生徒の内面的自覚を促し、倫理観や責任感を醸成する。 (2) 地域社会との共存について、モラル・マナーや倫理観を醸成する。			
		2 生徒間の自浄力を高める	(1) 活動支援課と連携して生徒間の情報発信や問題提起の環境づくりに努める。 (2) 防災教育・安全教育等により、危機管理・安全意識の向上を図る。			
		3 生徒が安心して過ごせる環境を守る	(1) 長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関を積極的に活用する。 (2) いじめの未然防止・早期発見に努め、個別の事案については組織的・継続的に取り組む。			

		自己評価				学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見		
生徒部	活動支援課	1 自治的・主体的な生徒会活動への支援を通して、修猷アイデンティティと実践的行動力を育成する。	(1) 各学校行事の意義を職員間で共有し、学校全体で生徒の自治的・主体的な活動を支援する。 (2) 生徒会活動における他者との積極的な関わりを充実させる。 (3) 中央審議会や部長会、自治会の開催を促し、生徒の自浄作用を促す。					
		2 二大行事に向けた生徒による自治的・主体的な活動への支援を通して、修猷アイデンティティと実践的行動力を育成し、新たな発想を取り入れた修猷文化を発信する。	(1) 生徒運営委員会における自治的・主体的な活動のための、教員による支援体制を整える。 (2) 限られた時間と予算の中で、行事の質をいかに向上させるかを考えさせ、実践させる。 (3) コロナ禍で生まれた知恵と工夫を、新しい文化としていかに継承していくか検討する場を設ける。					
		3 部活動を通して、「たくましく生きる力」をもった心身共に健康な生徒を育成する。	(1) 効率的に練習時間が確保できるよう各教科、学年、分掌との連携を密にとる。 (2) 部活動だけでなく、学校生活全般について部顧問、学年、分掌等で連携して支援を行う。 (3) 部室の使用状況と施設、貴重品管理等について、顧問による支援を行う。					
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路の手引きや進路説明会等を通して、進路に対する意識を強化し、高い志を醸成する。 (2) 年々変化する入試形態について情報収集を行い、生徒が多様な入試に対応する一助とする。					
		2 テスト・模試の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路支援へと繋げる。	(1) 実力テスト・修猷模試・外部模試を活用し、進路目標の実現のための実践力を高める。 (2) 新カリキュラムの中での補習、課外のあり方について検証、協議、検討し、有効な進路支援を行う。					
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) 学年行事や総合的な学習の時間を活用し、生徒の主体的キャリアデザインを支援する。 (2) 卒業生体験発表会、東大講演会等の講演会を企画・運営し、生徒の進路意識の向上に繋げる。					
広報課	広報課	1 本校の魅力を、第六学区小中学校の児童・生徒・保護者はもとより全国に発信し、本校の社会的認知度を高める。	(1) 学校案内パンフレットの積極的配布などを通じて、生徒・保護者のニーズに応える情報を提供する。 (2) H Pの掲載内容を十分に吟味し、より充実させるとともに積極的に更新してより魅力的な広報資料とする。					
		2 小学生保護者説明会、第6学区公立高校説明会、修猷フェストの企画を更に充実させる。	(1) 本校の教育理念、教育体制および生徒の姿を来場者に伝え、本校の魅力を発信する。 (2) 生徒部・生徒会執行部との連携を深め、生徒の協力も得てより良い広報体制を確立する。					
		3 地域や小・中学校、および進学塾との直接的な連携を重視し、相互の信頼関係の構築に努める。	(1) 学区内の中学校および進学塾との情報交換の場を設け、効果的な広報活動を目指す。 (2) 中学校での出前授業や授業参観等にも積極的に協力し、広報の好機として十分に活用する。					
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。 (2) 「年間聴講制度」の円滑な運営と成果の共有に努める。					
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。 (2) 研究紀要の刊行について、内容の充実を図り、活用を推進する。					
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。 (2) 各教科・各分掌等による教育研究を支援するという分掌機能を充実させる。					
		4 総合的な探究の時間のさらなる充実に向け、各学年・各分掌との連携による運営支援を行う。	(1) 自主的・協働的な活動を通して自己教育力・相互教育力の育成を図る。 (2) 社会状況を踏まえ、出前授業などにおける外部連携の在り方の再構築を図る。					
	図書課	図書課	1 朝読書を中核に据えて、学校全体の取り組みとして活字文化を推進する。	(1) 朝読書を軸とする読書活動を学年や他分掌と連携して学校全体で推進する。 (2) 感想を口頭発表する場と文章化する場を数多く設定し、言語化する活動の楽しさを講演させる。				
			2 しなやかな発想に満ちた、主体的な生徒図書委員会活動を推進する。	(1) 生徒図書委員会が長期的計画のもとで組織的な取り組みをするよう支援する。 (2) 書裁祭やクラス読書等において創意を凝らし洗練された企画を実践することで自信を深めさせる。				
			3 情報・メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。	(1) 各教科と連携して授業関連の情報・図書を提供し、生徒が主体的研究を行いやすい環境をつくる。 (2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。 (3) 書裁記念館(1F・3F)の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理と利用の促進を図る。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見